

# 城西国際大学

# 日韓シンポジウム

グローバル化の中の「韓流」「日流」

映像・文学は21世紀東アジアに何をもたらしたのか

❖ 2013年5月18日(土)

13:20-17:10

❖ 城西国際大学紀尾井町キャンパス

1号棟 地下ホール

定員 160名 参加費無料 要予約

「冬ソナ」韓流ブームから10年。

日本と韓国の研究者が集い、映像・文学から日韓文化の今を問う。

# 城西国際大学日韓シンポジウム グローバル化の中の「韓流」「日流」 映像・文学は21世紀東アジアに何をもたらしたのか

- ❖ 13:20-14:20 開会挨拶：水田宗子（学校法人城西大学理事長）  
基調講演：南仁煥（東西大学林権澤映画研究所所長）  
「女性の鏡の中へ：韓国フェミニズム映画の現在」  
(Into the Mirrors of Women: Korean Cinefeminism Now)
- ❖ 14:40-17:10 シンポジウム  
パネリスト：鄭智泳（梨花女子大学助教授）  
梁銀京（忠南大学教授）  
川村湊（法政大学教授）  
宇佐美毅（中央大学教授）  
ディスカッサント：和智綾子（城西国際大学客員教授）  
司会：長谷川啓（城西短期大学客員教授）

21世紀に入って日本、アジア、さらに世界を「韓流」が席卷し、韓国へのまなざしを激変させた。日本においては主に「中高年」女性がこのブームを担い重要な役割を担ったことは私たちの記憶に新しいところであるが、今や「韓流」は世代や性別を超えて浸透し根付いている。しかしこれらの交流の広がりにもかかわらず、両国が相互理解し検討し合い、未来への想像力の橋をかけるため、深め発展させていかなくてはならない課題は少なくない。

本シンポジウムでは、2004年以降の日本における「韓流」が、韓国と日本に何をもたらしたのか、映像・文学は、グローバル化時代においてどのような役割を担うことができるのか、韓国、日本のドラマの中で女性たちはどのように表象され、両国のジェンダー文化に影響をもたらしているのか。これらについて、両国の専門家がそれぞれの視点から意見を交換し、グローバルに再編される東アジアの文化空間の現在をとらえ、さらにその未来を展望する。

## ❖ 主催

城西国際大学ジェンダー・女性学研究所  
韓国文化研究センター

## ❖ 共催

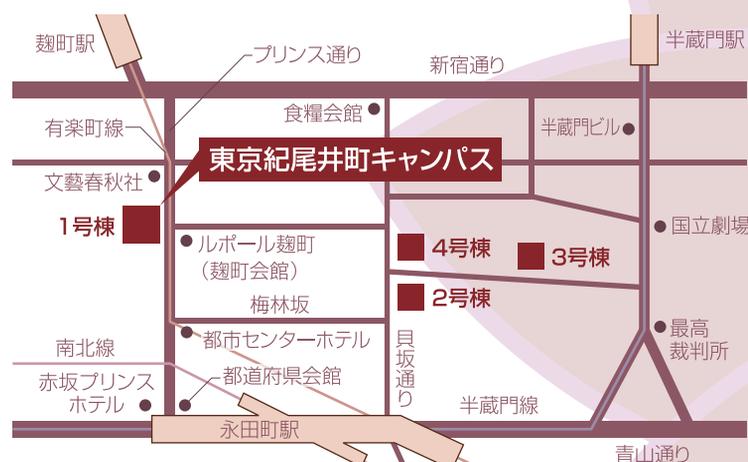
城西国際大学国際人文学部

## ❖ 後援

駐日韓国大使館 韓国文化院

## ❖ お申込み問い合わせ先

城西国際大学ジェンダー・女性学研究所  
E-mail: igws@jiu.ac.jp  
Fax: 0475-53-2199



## 東京紀尾井町キャンパス

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町 3-26

- ❖ 地下鉄有楽町線 麹町駅1番出口より徒歩3分
- ❖ 地下鉄南北線 永田町駅9番出口より徒歩5分
- ❖ 地下鉄丸の内線・銀座線 赤坂見附駅弁慶口より徒歩8分
- ❖ JR中央線・総武線 四ツ谷駅より徒歩10分